

リアス・アーク美術館より全国美術館会議会員館の皆様へ

東日本大震災による被害のため、長期休館を余儀なくされていた当館は、昨年 7 月 28 日に部分開館し、常設展及び貸館事業のみを行ってきましたが、本年 4 月 3 日より全面開館となりました。

震災発生からの 2 年間、会員館の皆様からはたくさんの励ましとご支援をいただきました。また全国美術館会議による「東日本大震災復興対策事業」においては被災資料保管庫や備品等のご寄付を頂きました。改めて御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

当館ではこの度の全面開館に合わせ、新常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」をオープンいたしました。美術館としては異例の試みとなりますが、被災した地域における博物館、美術館の社会的役割を熟考し、当館では津波という自然現象を、地域文化と密接にかかわる現象ととらえ、文化的位置づけを行っていくこととしました。

日本という島国で暮らす私たちにとって、津波は日常的な脅威と言えます。当館の新常設展示では津波がもたらす様々な社会的被害について多角的に検証しています。機会がございましたら、ぜひ足をお運びいただき、津波という現象についての理解を深めていただければと思います。

被災地は未だ復旧の途上であり、復興という表現が可能となる日ははるかに遠く、安定した日常を取り戻すためには弛みない努力が必要です。当館は地域の未来の為に、今後ますます活動を強化していきます。どうかこれからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

2013 年 4 月

リアス・アーク美術館

館長 佐藤光一